

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990600132		
法人名	社会福祉法人 昂希会		
事業所名	グループホームひだまり		
所在地	栃木県日光市塩野室町1504-26		
自己評価作成日	平成27年12月23日	評価結果市町村受理日	平成28年3月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様一人ひとりの思いや希望に沿った関わりが持てる様毎日の会話を大切に、季節を感じる行事ごとや飾り付け、外出支援にも力を入れております。
また、地域の方々との交流、隣接している特養との交流にも努めており、当ホームでの生活が穏やかにゆったりと流れ笑顔あふれる様取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は市東部の田畑と閑静な住宅が点在する地域に位置し、玄関からは那須連山が見渡せるなど自然に恵まれた環境にある。隣接地には同法人の特別養護老人ホームや系列医療法人のグループホームがあり地域における高齢者福祉の拠点ともなっている。職員は「あなたのあふれる笑顔と心に寄り添います」という理念を十分に理解し、日々のつぶやきなどを記録した「心の声ノート」を活用しながら思いをくみ取るとともに、利用者誰もが1日1回は笑顔が見られるよう支援に努めている。また、特別養護老人ホームと連携しながら定期的に児童館との交流を図るとともに地域の行事に積極的に参加するなど地域とのかかわりを大切にしている。利用者と一緒に食事の様子は笑顔と楽しい会話があふれるなど利用者、職員とも生き生きとした表情や姿が見られる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成28年2月4日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開所前にスタッフ間で作成した理念を玄関に掲げ、今年度の目標も作成し同様に掲げている。時折スタッフ同士で確認し合い、実践できるよう努めている。	職員は日頃から理念を意識し、利用者の笑顔が見られるように実践しており、毎月のカンファレンス時にも確認をしている。さらに今年度の目標として「ご家族と地域の繋がりを大切に、その人の個性を可能性に変え、笑顔あふれる生活が出来るような環境を作ります。」を掲げ共有と実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、塩野室児童館と交流を深めたりしている。近隣の方の敷地内まで散歩コースにさせて頂き、その場で採った柿を剥いて食べさせて頂いたり、地域の方の栗林で栗拾いをさせて頂いたりと交流を深めている。	自治会に加入しており、地域の敬老会に参加したり、近隣の方が敷地内を散歩コースに提供してくれたり、柿などの差し入れをしてくれたりと、地域との繋がりができている。児童館との年2回の交流では季節の行事や昔遊びなどを行い子供たちとの交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	週2、3回の買い物の際は小林直売所へ一緒に出掛けている。地域の方々との交流を図りながら、認知症の方への理解や支援方法を伝え活かしてもらっている。介護教室を通して認知症の勉強会も行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、入居者の生活の様子やサービス内容の状況説明・報告と同時に参加者からも質問やご意見を頂いている。また、参加頂いた駐在所の方に依頼し、ひだまりもパトロールを行って頂いている。	運営推進会議は隣接する特養と合同で、家族代表・自治会長・児童委員・市担当職員・法人評議員の参加により2か月に1回開催されている。運営状況の報告の他、意見や質問等が出され、サービス向上に活かしている。議題に応じ駐在所員や消防署員の参加もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問や不明な点は、直ぐに市町村に連絡し情報を頂く様努めている。	運営推進会議に市担当者も参加しており、顔なじみとなっている。行政の研修参加について相談するなど良好な関係になっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	隣設する特養、同法人のグループホームと合同で、身体拘束・虐待の委員会を定期的に開催している。身体拘束に関するアンケートや勉強会を行っており、身体拘束への正しい知識を得られる様取り組んでいる。	法人全体での身体拘束・虐待に関する委員会に参加し、2か月に1回開催される内部研修の内容を全職員に伝えている。職員は常に声掛けや言葉遣いにも注意をして身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、玄関は出入り時に音が鳴るようになっているが開錠されており、抑圧感のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日常ケアの中で絶対に虐待が行われない様、職員全体で注意を払い防止に努めている。虐待に関してのアンケートや勉強会を行い、理解を深めている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が専門的知識について学ぶ機会を設けられる様、外部研修も考えているが実際には参加できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者や家族の立場に立ち、丁寧な説明を行い納得された上で契約を行っている。解約や改定等がある場合も、十分な説明を行い同意書にサインを頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との電話や面会時に、沢山の意見や要望を聞けるよう努めている。職員が作成した広報誌を郵送したり、ブログなどで近況報告を行っている。	運営推進会議に家族代表が参加しており、そこでの要望を参考にしたり、面会時に意見を聴いたりしている。さらに家族を招いた食事会を開催して意見・要望を伺い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンス時に提案や意見交換の場を設けている。また職員同士が日常的にコミュニケーションを図れる様、連絡ノートを用いて情報を共有したり管理者は年2回の個別面談を行っている。その他にも相談を持ち掛けられた際には随時対応している。	職員は管理者と日頃から話し合う機会が多く、毎月の会議も意見の出しやすい場となっている。掃除の仕方など様々な提案を出し合っている。また、理事長との会話集会もあり、意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士が何でも話し合い意見を出し合える様、和やかな雰囲気作りを心掛けている。職員の日々の表情にも気を配り、有給や希望休の取得がしやすい様努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力に合ったスキルアップが図れる様、内部・外部研修への参加を促している。また外部研修の報告書を全職員で閲覧したり、研修に参加しやすい様勤務表を配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に入会し、研修などに参加して情報交換を行っている。他のグループホームを見学させて頂いたり、相談事を電話にて伺ったりと交流の機会を設けている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談や調査の際に必ず本人と面談し、不安や困っていること、生活の希望等も確認し安心した生活が送れる様に努めている。また、サービス事業者の担当者からも情報を得て、入居者の事を良く理解出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	玄関にご意見箱を設置し、不安な事や要望を聞ける様にしている。相談受付や調査の際に必ず家族と面談を行い、不安や困っている事等を確認している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の希望や意向を踏まえ、グループホームでのサービスの内容を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	買い物や調理等一緒に行動したり、時には入居者の住んでいた方面へ出掛けたりしている。同じ時間を過ごし、共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節毎の行事や通院等家族との関わる機会を持ち、本人と家族の絆を大切にしている。また家族の面会や電話の際に本人の状況を報告したり、本人の思いや困りごとがあれば家族と一緒に支えられる様支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけだったお店や美容院、お墓参り等馴染みの人や場所との関係が途切れない様外出支援に努めている。面会時間も一応の決まりはあるが、面会者の都合に合わせられる様努めている。	家族付き添いのもとに馴染みの美容院や外食等に出かけたり、職員の対応によりお墓参りに出かけたりしている。親戚の方や友人が時々来訪するなど、馴染みの関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を把握し、座席の工夫をしている。他者と関わる事が苦手な入居者については職員が関わりを多く持ち、孤立しない様支援している。レクリエーション等全員で楽しみ、皆で笑って過ごせる時間を作る様努めている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人が入院し死亡となったの退去となったが、告別式に参列するなどして、これまでの関係性を大切にしている。今後も関係機関と連携しながら、必要に応じて本人や家族の支援に努めたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人や家族の希望・意向の把握に努めている。困難な場合は、表情や仕草・行動などを見て、思いを汲み取り、意向に沿えるように努めている。	日々の会話や何気ないつぶやきなどを「心の声ノート」に記入し全職員が共有するとともに、フェイスシートも活用しながら思いの把握に努めている。表現の困難な方については行動やしぐさから思いを推し量り本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境は、日々の会話の中で把握できるように努めている。また、本人が楽しかった事やお好きな事は、継続していけるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々変化する一人ひとりの生活リズムや健康状態を把握できるよう、全職員で情報交換を行っている。また、趣味活動など、本人の行いたいことの把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者の担当職員を決めており、定期的にモニタリングを行っている。ケアの在り方や生活での課題などを、全職員でカンファレンスにて話し合っている。	担当職員の情報や報告をもとに毎月モニタリングを実施している。介護計画は、面会時の家族の意見要望や主治医の意見なども反映し、6か月ごとに見直しをしている。また、状況が変化した場合にも全員でカンファレンスを行いその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個人記録に残す際、発した言葉だけでなく、表情・仕草など細かく記録に残すよう努めている。また、申し送りノートや心の声ノートを活用して共通理解を図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望に対しての日用品の買い物や、外食・外出支援にも努めている。本人や家族の意見を聞き、柔軟な支援を行うよう努めている。また、家族の状況によっては通院介助も行っている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々に気楽に訪問して下さる様、声掛けしたり運営推進会議で意見交換をする機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にかかりつけ医の確認を行い、8名の入居者が協力医へ変更されている。もう1名の入居者に関しても、かかりつけ医への受診が円滑となる様家族へ普段のご様子を伝えている。	現在のかかりつけ医は7名が協力医、2名がこれまでの医療機関となっている。受診に際しては家族付添のもと、事業所独自の看護サマリーを活用している。家族の都合がつかない場合は職員が対応するとともに、毎月協力医の往診があるなど、安心して医療が受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員が日々看護職員と情報を共有している。必要に応じて協力医などに相談し、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際に家族や病院関係者と連携を取り、治療の方針や退院に向けたリハビリの方向性の相談・助言に努めた。今後も病院関係者との関係作りを努めていきたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	面会時や電話の際に本人の様子をお伝えしている。心身の状況の変化やこの先予測される変化について話し合い、事業所で出来る事・出来ない事の説明をしている。必要に応じて、特養などの施設申込みが出来る様に支援を行っている。	看取りの経験はないが、重度化に至った事例があり、家族には予測される身体状況について事業所で対応できるケアの有無などを伝えている。	今後、利用者や家族が看取りを希望する場合も考えられることから、勉強会等による職員の意識の共有や、事業所としてできること、できないことなどを話し合い、看取りの対応方針等を検討することを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入職時の研修にて救命講習を行っている。また、緊急連絡網が正しく機能するか連絡網を活用した訓練も実施しており、今後も行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いの下、年2回の消防訓練を実施している。それ以外にも夜間を想定した訓練や家族、近隣住民の訓練への参加、特養との連携の確認等協力体制を築いている。	地域の方や家族の協力を得ながら、年2回の消防訓練の他、夜間想定を含め2回の避難訓練を実施している。災害時の緊急連絡網にも地域の方や家族も入り、協力体制が築かれている。備蓄はひざ掛けやカイロの他、水・缶詰・レトルト食品・うどん等が確保されている。	

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	フェイスシートや生活歴等を基に、一人ひとりのプライバシーを損ねない様、さりげなくそっと耳元で声掛けを行う様に心掛けている。職員は、入職時に守秘義務の同意書を出してもらい、個人を尊重した対応を心掛けている。	一人ひとりの人格を尊重してトイレや入浴などは、さりげなく優しく声かけ誘導をしている。特に着替えや汚物処理については、プライバシーを損ねないよう注意している。利用者の呼び方は、名前に「さん」付けて呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の会話の中から、希望や思いを把握していきける様常に耳を傾けている。又、職員間で共有出来る様に「心の声ノート」を活用している。自己決定が難しい方に関しては、本人の表情や仕草から対応出来る様に心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自室でTVをご覧になったり、横になって休む方、リビングでは自ら塗り絵に取り組んだり本を読まれる方、新聞や雑誌を見る方等その人一人ひとりのペースで過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴時には、好みの洋服を選んで着て頂いている。家族と馴染みの美容院に行く方やボランティアによる理美容サービスを利用し、自分の好みにカットして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が旬の食材を取り入れた献立を作成し、入居者と一緒に作っている。季節や行事に合わせた食事になるように工夫している。又、後片付けも一緒に行っている。	職員のメニュー作成により利用者は食事作りの下ごしらえや準備・後片付けをしている。しもつかれなど季節に応じた食べ物は利用者と職員と一緒に作り、楽しみとなるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同法人の栄養士に助言を頂き、バランスの良い食事が摂れる様に工夫している。水分量も常にチェックし水分量の足りない方には本人の好きな飲み物を提供したり、随時声掛けを行っている。又、ご飯は本人の目の前で量を確認しながらよそっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けし口腔ケアを行っている。自分で行えない方は介助している。週3回義歯洗浄剤を使用し、清潔の保持を心掛けている。必要があれば家族に歯科受診の依頼を行っている。		

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄パターンを把握し、介助や支援に携わっている。又、プライバシーに十分配慮した排泄の声掛けを行い、汚物をトートバックに入れる等の配慮をし、拒否や理解が困難である場合も再度時間を改め声掛けするなど工夫している。	職員は排泄目安表を作成して、利用者の排泄パターンを把握し、他利用者に配慮した声掛け、誘導をしている。居室などでの排泄交換には職員が工夫したバッグを利用し、さりげなく片付けをするとともに、リハビリパンツとパットを使用する等、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便を促せる様に毎朝体操を行ったり、ヨーグルトや牛乳、果物などを提供している。又、必要に応じて下剤の内服も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	リラックスして入浴して頂ける様に、音楽をかけたり入浴剤を使用している。ご本人のペースで洗身、洗髪を行い、声量に配慮した声掛けを行っている。	基本的には週2回以上で午後入浴となっているが、利用者の状況や行事予定により柔軟に対応している。入浴剤は本人の希望にそった香りの物を使用するとともに、季節の菖蒲湯やゆず湯などを活用し、ゆったりと楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度設定に注意し、冬場は乾燥を防ぐべく加湿器を導入している。起床時や日中等シーツのしわを直したり布団をたたんでおくなど環境も整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を服用する際はご本人のペースに合わせて支援し、きちんと内服したかどうか確認している。内服薬に変更があった際は、その後の様子を観察し職員間で連絡・伝達・記録に残すなどして情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活にメリハリをつけるべく、洗濯物たたみや調理手伝い、掃除等の声掛けを行っている。日常を単調に過ごしてしまわない様に、レクリエーションや体操等全員に声をかけて働きかける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の行事等、職員間で計画を立てて支援している。戸外での空気も感じて頂ける様に外出の機会を多く設け、本人の希望に沿った外出も行っている。	利用者全員での外出は、リンゴ狩りやお花見など、年間行事が計画されている。近所のコンビニや恵比寿様への散歩のほか、個別に本人の希望やつぶやきから買い物やドライブに出かける等、外出を楽しむ支援に努めている。家族の付き添いにより外出に出かける利用者もいる。	

グループホームひだまり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当ホームでは預り金としてお小遣いを預かっており、外出や買い物時に利用している。本人がお金を持つ事の大切さも理解しており、可能な方にはお金を渡しレジでの支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて随時電話できる様に支援している。手紙を希望される方はいないが、希望があれば支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	設計当初より木材を所々に使用し、ぬくもりを感じる落ち着いた色彩になる様配慮している。空調には常に気を配っている。リビングや玄関には、四季を感じられるものを飾ったり置いたりして和める雰囲気づくりを心掛けている。	床は木目調になっており、リビング壁面には利用者全員で作成した季節のちぎり絵が飾ってある。光も十分に入り温湿度も適切に管理されている。リビング片隅には一畳ほどの畳台が置かれ和の雰囲気を味わいながら洗濯物のたたみ場や寛ぐ場となっている。毎朝清掃もされ清潔感のある空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされる時は、過度な干渉は避け見守りのもと自由にして頂いている。又、席替え等も行い気の合う方とお話をしたり、居心地の良い環境づくりを心掛けている。廊下にはソファを置き、一人でも過ごせる様な配慮もしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具や家電品を持ち込んで頂いている。サークル等で自分で作った作品やお孫さんの写真を飾ったりされる方もおり、居心地良い居室になる様工夫している。	エアコン・カーテン・ベッド・寝具・掛け時計・加湿器が備え付けられている。利用者は使い慣れた馴染みの筆筒やブラケース・テレビなどを持ち込み、家族や孫の写真・本人の作品を飾るなど過しやすい工夫をしている。掃除も行き届き清潔である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札をつけたり、それぞれの部屋のカーテンの色を変え認識しやすい様工夫している。所々に貼ってあったトイレの表示は必要最低限としたが、自立して行えている。		